

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語演習
科目基礎情報					
科目番号	4E001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子メディア工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書は指定せず、授業担当者の作成したプリントを教材とする。				
担当教員	太田 たまき, 田村 祐子				
到達目標					
<input type="checkbox"/> 的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できる。 <input type="checkbox"/> 必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。 <input type="checkbox"/> 建設的な相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、適切に応用できる。	的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、ほぼ応用できる。	的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用することができない。		
評価項目2	信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、適確に論理構成に活かすことができる。	信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。	信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができない。		
評価項目3	相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価し、建設的に助言することができる。	相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができる。	相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができない。		
評価項目4	相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。	相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができる。	相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	20名前後の少人数クラス編成により、到達目標の達成にむけて実践的に学習する。				
授業の進め方・方法	クラスを二つに分け、主として演習形式により、適宜解説的講義を交えて授業を展開する。				
注意点	授業内評価が前提のため、授業への出席が評価の基本です。 本科目は学修単位なので、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が授業の前後に必要となります。具体的な学修内容は授業内容の予習・復習に該当するもので、適宜授業時間内に指示します。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	小論文(1) 小論文作成の基礎	設定された課題について、小論文を作成することができる。	
		2週	小論文(1) 相互批評	課題1について小論文を作成し、学生同士で相互に批評する。	
		3週	小論文(1) 相互批評	課題2について小論文を作成し、学生同士で相互に批評する。	
		4週	小論文(1) 相互批評	課題3について小論文を作成し、学生同士で相互に批評する。	
		5週	小論文(1) 相互批評	課題4について小論文を作成し、学生同士で相互に批評する。	
		6週	小論文(1) 相互批評	課題5について小論文を作成し、学生同士で相互に批評する。	
		7週	小論文(1) 小論文の総括	これまでの総括と今後の改善点を確認する。	
		8週	敬語	尊敬語・謙譲語・丁寧語の定義を理解し、適切な運用能力を身につける。	
	4thQ	9週	悪文訂正	悪文の訂正作業をとおし、正しい表現で文章を書くことができる能力を養う。	
		10週	挨拶文の実践	メールや礼状、添状などの挨拶文の基礎を理解し作成する。	
		11週	自己調書の基礎	履歴書やエントリーシートの基礎を学ぶ。	
		12週	自己調書の実践	客観的な視点からの批評をとおし、自己調書の実践・訂正・清書を行う。	
		13週	小論文(2) 文章表現の基礎	アカデミックライティングの基礎を学ぶ。	
		14週	小論文(2) 小論文の書き方	過去問題をもとに、構成の立て方などを学ぶ。	
		15週	小論文(3) 小論文の実践	これまでの学習をとおし、小論文を完成させる。	
		16週			
評価割合					
	敬語小テスト	小論文(1)	小論文(2)	自己調書	合計
総合評価割合	10	40	30	20	100
基礎的能力	10	40	30	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0